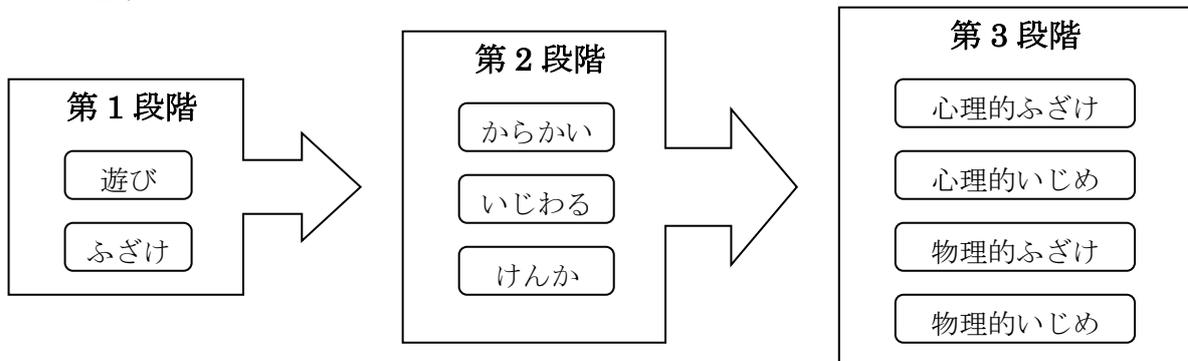


いじめの対応(1)

1. いじめとは・・・

自分より弱い者に対して一方的に、身体的、心理的な攻撃を継続的に加え、相手が深刻な苦痛を感じているもの。

2. いじめの進行

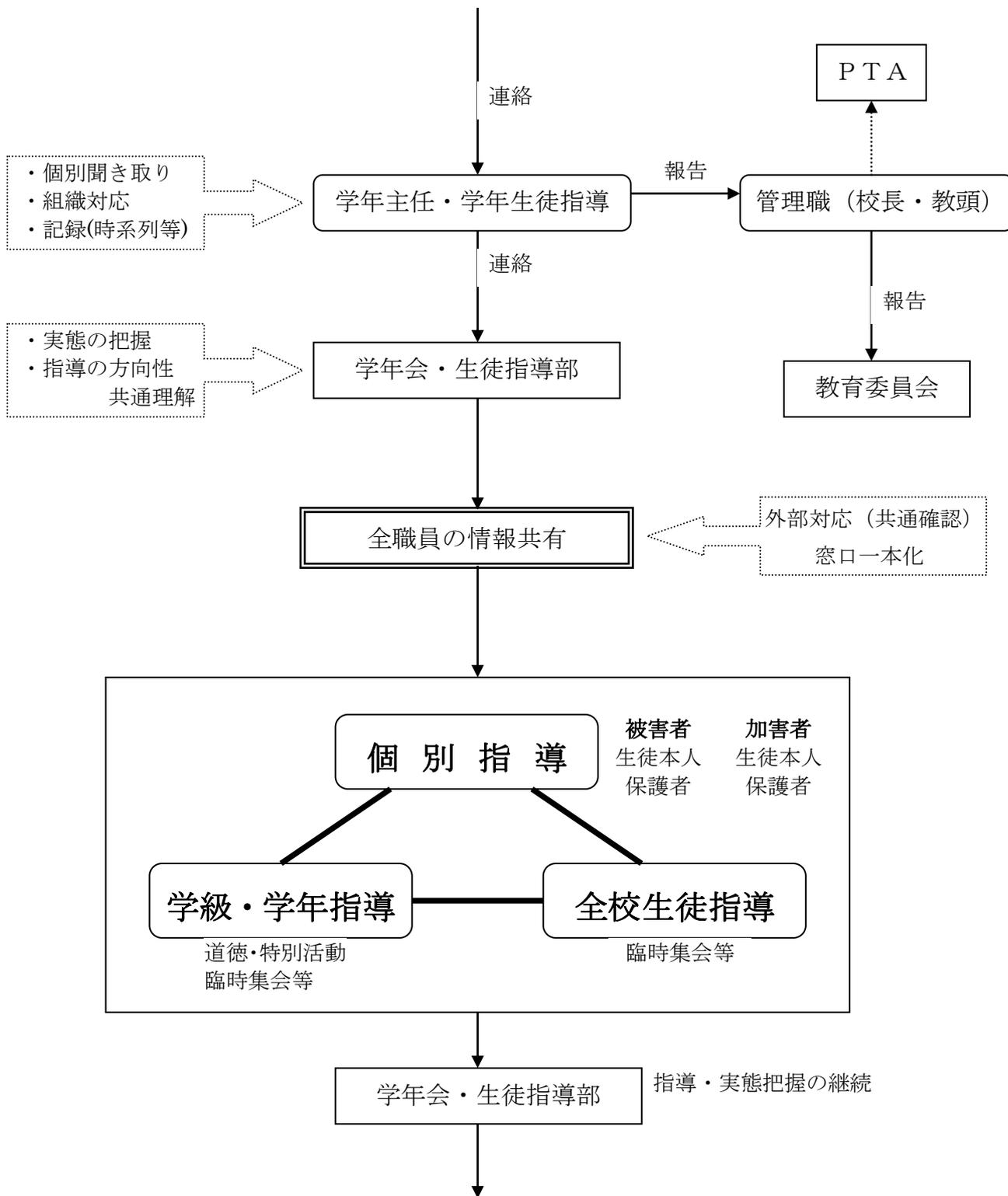


3. いじめの様態

		「いじめ」の様態・内容			
		いじめられる側		いじている側	
		個の行動・状況		複数の行動・状況	
学校の対応・関係機関との連携	群れ遊び	・遊びや生活を通して、互いにふざけたり・じゃれ合ったり・いさかいがあつたりする 〔遊び仲間→対等・平等〕			
	初期	萌芽	・度重なる「ふざけ・からかい」などを不快に感じるようになる。 〔支配・服従関係の萌芽〕	・立場を入れ替えながら、「ふざけ・いじわる・からかい」などを行うようになる。 〔支配・服従関係の萌芽〕	
	前期	恐れ	・多人数による「いじめ」に恐れを感じるようになる。 〔支配・服従関係の成立〕	・ターゲットを固定し、仲間を誘い複数で「いじめ」を繰り返す 〔仲間の存在、安心感〕	
	中期	訴え	・周囲の仲間、友達の行動や態度が気になる。 〔いじめのサイン〕	・周囲の仲間の反応を気にして見ている。 〔いわゆる「チクリ」の心配〕	
		諦め	・無関心を装い、傍観的な態度の友達を見て「訴え」を諦める。 〔見て見ぬふりをする人間関係〕	・周囲の動向を見定め、仲間に「いじめ」を「示唆、命令」をする。 〔自己のいじめ隠蔽〕	
	後期	無力	・親や教師に訴えた後の「報復・暴力」などを極端に恐れる。 〔訴える気持ちになれない状況〕	・暴力行為をしばしば繰り返す。 〔本人及び仲間・周囲に対する「チクリ」の防止策〕	
		自尊	・「いじめ」そのものの事実を自ら否定する。 〔自尊感情の同様〕	・暴力行為の他に金品の強要、使い走りなどが生じる。 〔チクリ・訴え等、絶無の感触〕	
末期	否定	・耐え切れず、「転校・自殺」などを考えるようになる。 〔自己否定の考え方の実行〕	・暴力行為や金品の強要などが学校内外でますます激しくなる。 〔「無法」といえる状態への継続・発展〕		

いじめ発見・発覚

(担任・その他職員)



「いじめ」を許さない基盤の再構築

